

# 知識蓄え有事の備えに

## こそだて シップ 大船渡で防災ワークショップ

大船渡市のNPO法人こそだてシップ（伊藤怜子理事長は8日、盛町のサン・リア内に開設する「すくすくルーム」で、防災ワークショップを開いた。育児中の母親らが参加し、有事への備えや心構えについて知識を蓄えた。

東日本大震災を経験していない親子が増える中、日ごろから防災意識を持ってもらおうと開催。当初は、避難所となっている同町の天神山公園まで歩く「防災ハイキング」を予定していたが、雨天のため内容を変更した。

この日は親子約10組が参加。伊藤理事長は平成23年の震災を振り返りながら、避難所で乳幼児や小さな子どもを抱えた母親らの悩み

新沼さん（中央）らが災害時の育児に役立つノウハウを指南

に触れ、「周囲に迷惑をかけられないという母親がいっぱいた。

でも、自分から声を出して、助けてもらうことも大事。大人は我慢できても、子どもにとっては訳のわからない状況だから」と伝えた。また、「育児と防災はセットだと思っしてほしい」とも話し、日々

の育児の中で有事に備えることの大切さを語った。

その後は、同市の防災士・新沼真弓さんによるワークショップや、非常食の試食など

を実施。参加者らは、さまざまな話を聞きながら、非常時に思考停止に陥らず、冷静な行動をとるための訓練の必要性も意識した様子だった。

